

ご支援のお願い

(2019年3月11日)

すみれ学級は、昨年4月1日付で大分県から公益財団法人の認可を受け、公益財団法人すみれ学級として出発しました。

そして現在、公益財団法人として、子ども食堂・学習支援・居場所づくりを7か所でおこなっています。

「子どもの貧困」は、「6人に1人から7人に1人と改善された」と政府は発表しておりますが、この間の経験から見てきたものは、子どもの貧困は、日本の底辺の問題というよりも、もはやかつては中間層と呼ばれる部分にも及んでいるということです。

2018年の政府統計で子どもの貧困について次のように示しています。

全国 6歳～14歳 人口 9,771,000人／貧困人口 1,397,253人
大分 6歳～14歳 人口 87,921人／貧困人口 12,560人
(貧困世帯の年収 122万円)

これに対しすみれ学級は、あまりに無力です。

しかし、お腹をすかし、孤食に耐え、居場所のない子どもたちを放置してはおけません。

古代ギリシアの哲学者であり、科学者でアルキメデスは「我に支点を与えよ。さすれば地球を移して見せる」といったそうです。

大分における貧困児童・生徒を支援し、この社会から貧困児童・生徒をなくす支点づくりは、はじまったばかりです。

当面する最大の課題は、財政基盤の確立です。

2018年度の食事提供数は9830食で、参加児童・生徒数は8891人、開催日数は807日となります。費用総額は、22,240,000円です。

受領寄付金内訳

個人会員及び寄付者 123名 寄付金額 3,350,000円

法人会員及び寄付法人 161社 (うち医療関係94社)

寄付金額 16,465,000円

(内 (株)そうりん 11,400,000円 (株)ソメヤ商事 1,000,000円)

受け取り助成金合計 100万円

また、2019年度の計画は、2018年度の成果に踏まえ、次の通りです。
開催日数は 1,156 日で、月・火・水・木・金・土・日と週 7 日、毎日どこかで開催され、子どもたちに食事を提供しているということです。
提供食事数は、13,917 食の見込みです。

今年度の新たな取り組み

1. すみれ学級に通う小学4年生以上の女子児童・生徒に生理用品の無償配布

生理用品の企画販売会社グリーンボックス株式会社（「ナチュラムーン」ブランド）の支援による。

2. すみれ学級 1 組（敷戸教室）で中学生を対象とした進学教室

大分大学経済学部学生による学習指導。

それに伴い**費用総額も、前年比 415 万円の増となり、総額 26,390,000 円**に上がります。
この巨額の資金を皆様をお願いしなければなりません。

「無謀な計画ではないか」という批判もありましたが、すみれ学級に寒さに震えながら、朝早くから朝食をとりに来る児童・生徒を見るにつけ、立ち止まってはいけないと思うのです。
改めて、皆様方のあたたかいご支援を、お願いする次第です。

2019年3月11日

公益財団法人 すみれ学級 理事長 藤井富生